

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790300503		
法人名	株式会社 人輝		
事業所名	グループホーム 輝たむら		
所在地	福島県郡山市田村町金屋字上川原269-1		
自己評価作成日	令和7年5月2日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク		
所在地	〒974-8232 福島県いわき市錦町大島2番地		
訪問調査日	令和7年7月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・利用者様が住み慣れた地域で、地域の方々との交流を大切にしています。
 ・ご利用者様に笑顔になっていただけるよう、利用者様の思いや喜びを大切に、日々のレクリエーション活動に併せ、季節の行事や外出(ドライブレク)にも力を入れ、楽しませて過ごしていただいています。
 ・生活のパートナーとして、安心して過ごしていただけるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域密着型サービスの役割を理解し、利用者の状況や社会の状況について職員と情報を共有し、地域の中で事業所の果たす役割を考えている。
 利用者・家族・運営推進会議の参加者の意見を事業所のケアサービスの向上に役立つものと理解し職員の働く意欲を引き出す取り組みをしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を念頭におき、日々の支援を行っている。朝礼時に理念を唱和していたが、現在は感染防止の為、全体朝礼は行っていない。	新しい取り組みやチームワークを大切に、利用者・家族の笑顔と感謝を伝えることを職員一人ひとりが心がけている。パートや職員などの、立場や経験にかかわらずチームの一員として日々の業務に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として近所づきあいや地元の活動、地域住民との交流に積極的に取り組んでいる。	運営推進会議の際に町会長や地区の民生委員の方々と交流を交わしている。地区の集会所で実施されている、いきいき100歳に参加し地域の方々と交流も図っている。	民話の紙芝居や歌の訪問を受け入れている。コロナ感染症前に中学生の職場体験を受け入れている。地域の集会所で行われている、いきいき100歳体操に参加し地域の方と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	いきいき100歳体操の場を集会所から施設へ移行出来ればと考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回運営推進会議行い、ヒヤリや事故について色々な意見を交わしたり、地区の行事の情報等を教えて頂き、サービスの向上に活かしている。	地域で行われる行事の情報を貰ったり、事業所内での事故やヒヤリハットについて第三者の目で意見をもらっている。運営推進会議での意見は、朝礼や申し送りで職員と共有し、事業所のケアの向上に役立てている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要時に取っている。提出物も郵送ではなく、持参することで関わりをもつようにしている。	身寄りのない方の看取りの対応について相談したことがあるが、市からは特別に何も対応してはもらっていない。メールで介護保険の情報や研修情報・感染症情報などを受け取っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会にて定期的にアンケートを実施し、現状の確認を行っている。	身体拘束についての理解と拘束しない工夫を、職員への定期的なアンケートで意識の把握を行っている。言葉の拘束については、どのような時にどのような言葉遣いをしてしまうかを話し合い、声のかけ方に気をつけるようにしている。	
7	福-1	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会にて定期的にアンケート実施し、現状の確認を行っている。外部研修にも積極的に参加し、フィードバック研修にて勉強の機会を設けている。	虐待行為を発見した場合の対応方法や、どのようなときにどのような形で虐待が行われてしまうかをフローチャートで示し、理解を深めるようにしている。不適切なケアについて、話し合ったり決してしないという確認をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対象となる方には弁護士や後見人に対応していただいている。 外部研修に参加しフィードバック研修を行うことで勉強の機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約内容や重要事項を分かりやすく説明し、理解と納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や口頭にて要望があると、日誌や生活記録シートにて申し送りし、サービスの向上に努めている。	家族から車椅子でも外出してほしいとの要望が出され、外出の機会を多く喜ばれている。意見や要望を真摯に受け止め、安心と信頼を得て、サービスの質の向上に生かしていきたいと考えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や管理についての職員の声に耳を傾け、活かしていくことを心がけ、職員の働く意欲の向上や質の確保を図っている。	ミーティング時や個別面談等に意見を吸い上げ、改善出来る事や要望は聞いている。	業務内容や割り振りについて意見が出され、勤務シフト作成時に考慮している。資格取得や研修への参加要望があれば勤務シフトの調整をし、参加できるようにし、ボランティア活動に参加したり笑いヨガの講習を受けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	それぞれの働ける条件等を考慮し、勤務体制を組んでいる。 自己考査も実施している。		
13	福-2	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ベテラン職員が新人職員の指導をしている。 外部研修に参加し、その都度フィードバック研修を実施している。	代表取締役や管理者は、様々な研修への積極的参加を促し、内部研修での実施により職員全体のレベルアップを図っている。研修の結果、感染症対策やスピーチロック、記録の書き方に成果が現れている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	内部研修に参加していただいたり、積極的に外部研修にも参加していただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実調時に本人の思いを傾聴し安心していただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	適宜思いを傾聴し、要望を把握出来るように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様やご家族様の思いを傾聴し、心身の状態の確認を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	行事の準備や日々の役割を持つことで、生活のパートナーとして関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や通院時、必要時には電話連絡したりして関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お花見や紅葉ドライブなど思い出の地に行くなどして支援している。 感染対策の為、外食は出来ていない。	若い頃働いていた勤め先に職員と出かけたり、桜を見に行きたいとの希望があり出かけることができています。携帯電話を持っている方は、自由に話をして貰い、定期的に家族が面会に来ています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事や日々のレクリエーションを一緒にする事により交流を図っている。 利用者様同士のトラブル時は都度、席の配慮を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後もご家族様の相談等あれば相談に乗り、アドバイスしたり、要望に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、関係者で本人の視点に立って意見を出し合い、話し合っていく取組を心がけている。	本人との会話や利用者様同士での会話で思いや考えを汲み取り、定期的なモニタリングやカンファレンス、ケアプラン作成時に検討している。会話が困難な方は表情や行動から意思を汲み取っている。	入浴時や就寝前に話を聞くことが多く、自宅の話や家族の話をゆっくりと傾聴することを大切にしている。把握した思いや意向は連絡ノートや口頭で職員全体で共有しケアに生かすようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常生活の中や家族様面会時、カンファレンス時に、情報の収集に各自努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の状態や過ごし方は日々の関わりで把握し、一人一人の残存能力を活かすよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時等に家族様の意向や思いを聞き、職員の気付き等をカンファレンス時に話し合いを行い、介護計画を作成している。定期的なモニタリングも行い状態変化時には、都度見直ししている。	一人ひとりの状況を把握し、出来る事は声かけ促し、その人の持っている身体機能の維持に努め、生活の中で役割を持ってもらえるようにしている。日々の関わりの中で状況に応じた、柔軟な計画を作成するようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子等を記録に残し、定期的に行っている。カンファレンスで見直し等で行っている。口頭でも申し送る事で、職員間の周知徹底を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様や家族様の状況に合わせ、柔軟な支援やサービスに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染対策の為、買い物等には出掛けられていない。近所はの買い物や地域行事への参加をしていきたいと考えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの主治医に家族様対応で通院し連携を図っている。 家族様が対応が難しい方には、訪問診療を利用している。	定期往診の主治医、歯科往診の医師とは電話やメールでの相談にも対応してもらっている。内服薬や検査結果に関しては、状況に応じて主治医から家族に説明してもらっている。受診結果は家族と共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回医療連携看護の来訪あり、体調管理の相談をしたり、助言等いただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護サマリーを作成し病院へ持参し、入院中も、ご家族様や相談員と密に連絡を取っている。 退院前には病院を訪問し病棟看護師から状態報告や退院後のケアの留意点を確認している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りを行える事を契約時にお話ししている。 状態悪化時には、家族様への現状の説明を行い、終末期うい安心して迎えられよう、看取りの介護計画を作成し、日々の状態を確認しながら支援している。	重度化や終末期においては少しでも長く家族と過ごせるよう、面会時間を設けず宿泊対応を行っている。看取り時は、最後までその人らしく穏やかな時間を過ごしてもらえようとしている。看護師や主治医と連携している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命を受講予定だったが、感染予防で実施できておらず、今年度は実施したいと考えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行い、全職員が避難誘導の流れを把握し、消火器の使い方を習い、実演し使い方を習得している。	消防署や消防設備会社が参加し訓練を行っている。消防署から避難の動線に物を置かないよう、避難用すべり台を点検しておいてほしいとのアドバイスをもらっている。勤務シストを調整し、職員の参加を増やすようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮し、声かけの際の言葉遣いや声の大きさや声のトーンに気を付けている。	利用者を自分の家族に置き換え、人生の先輩として尊敬し相手の気持ちに立った声かけや接し方をするように伝えている。援助が必要な時でも、利用者の意向を確認しながら、自己決定してもらうことを基本にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりで話しやすい雰囲気作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活のペースを尊重し対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時にご本人様に衣類を選んでいただいたり、定期的に来所する訪問理美容の利用により、カットを楽しまれ、朝お化粧される方や髭剃りを自身にて行い身だしなみを整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている。	昼食やおやつ時にホットプレートを使用し、一緒に料理を楽しまれている。 食事時は利用者様、職員共に同じ場所で同じ時間に食事をしている。(現在は感染予防の為、離れて食事をしている。)	専門の業者に食材やメニューを依頼している。行事や誕生会のメニューは職員が考えている。一人ひとりのペースで食べられるよう早めに提供したりその人の食べる力に合わせて常食やミキサー食などをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食時、水分提供時には摂取量を記録し水分量を都度確認している。 スプーンやフォーク、食器の種類や大きさも個々に合わせたものを準備している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きを行っている。夜間は義歯を外し洗浄剤につける等、残存能力に合わせた支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁を防ぐ為、こまめな声かけ、トイレ誘導している。	トイレでの排泄を基本として、失敗しないようこまめな声かけでトイレに誘導するようにしている。トイレ誘導は、自尊心を傷つけないよう周囲の状況にも配慮しこまめな声かけ本人の動きを見てサインを見逃さないようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	何日も排便がない時に乳製品を提供したり、運動を促している。それでも排便が無い時には内服薬で対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の体調と気分に合わせて入浴を支援している。季節の菖蒲湯やゆず湯は大好評。入りたくない時や体調不良の時には翌日にずらしたりして対応している。	入浴剤やその人の好みのものを利用して入浴してもらっている。脱衣所と浴室の温度差をなくしヒートショックを防いでいる。衣類の着脱時には利用者の羞恥心に配慮し、タオルを利用してもらい見守りしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不眠時には飲み物を提供したり、話を傾聴している。一人で寂しい時などは畳スペースを活用している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を確認し、薬の目的・用法・用量を確認し、体調や行動などに変化があれば、医師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々のレクや体操の参加に加え、おやつ作りやドライブに出かけることにより、気分転換や季節感を感じていただいている。個々の嗜好品も把握し、食事時やおやつ時に提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ベランダに出て、プランターに野菜や花の苗を植え育て、後に収穫し味見する事を楽しみにしている。季節ごとの行事(お花見、バラ園、案山子ロード、田んぼアート、紅葉)ドライブにも出かけている。	近くの公園や事業所周りや事業所前の池の歩道などを散歩している。行事で出かけるときは事前にルート、多目的トイレなどがある場所、車椅子等の貸出の確認、飲み物、タオル類、救急セットなどを準備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は施設で個々に預かっており、買い物などで使用できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人や家族の希望があれば、電話等にて対応している。 携帯電話を持参している利用者様もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは、季節を感じられる装飾にしてあり、過ごしやすい温度設定、環境作りに努めている。	共有空間のフロアや畳のスペースなど一人ひとり、その日の気分で好きな場所で過ごしてもらっている。移動のための導線を確保するため、ドアの近くに物や飾り物を置かないようにして安全を確保している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間では、テレビを見て過ごされる方、会話される方、ぬりえ等趣味を楽しまれる方とそれぞれが自由に過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。 (グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。	本人の使い慣れた物や思い出の物や写真などを持参して来られ、心地よく過ごせるようにしている。	プライベートな空間であり、これまで生活していた自宅などの環境に配慮し、ベッドや家具などの配置をしている。カーテンや家具類は使い慣れた物を持参してもらい、安心して快適に過ごしてもらえるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	月の催し物など、月日が分かるようにカレンダーを目のつく所に貼っている。 トイレや浴室や居室なども分かりやすいように掲示している。		